

ポリオ経験者アンケート結果報告（於 2022 年例会）

昨年 11 月 13 日名古屋市総合社会福祉会館にて 2022 年度例会を行いました。コロナ禍で延期をしておりましたが、一昨年会員の皆さんにご協力を頂きましたアンケートの結果を藤田医科大学の戸田先生に講演して頂きました。2008 年に行ったアンケートと比較し経年変化等、詳細に発表して頂きましたスライドの一部を掲載いたします。



ポリオ経験者の現状
-アンケート結果を中心に-

戸田美美

藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座

- 2007～08年アンケートと2021年アンケートとの比較
- 2021年アンケート結果

対象

- ①2007～08年（以下，初回）に回答
（回答数：162名，回収率100%）
- ②2021年6月に回答
（回答数：150名，回収率72.5%）

①かつ②を満たした65名（男性18名，女性47名）の初回と2021年の結果を比較

調査項目

＜アンケート＞

安定期の麻痺の分布

症状の有無 青：PPSの診断基準(Halstead, 1987)に関連

- ・疲労感
- ・関節痛
- ・筋肉痛
- ・運動麻痺
- 四肢ごとに「麻痺なし」「少し動きが悪い」「かなり動きが悪い」「動かない」から選択

<検診>

下肢の良好側と不良側

ポリオ専門外来フォローの有無

結果

年齢（中央値）

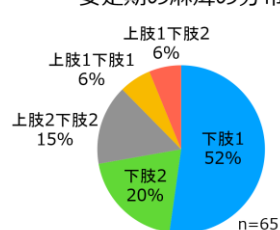
初回 58歳 (47-74歳)

2021年 72歳 (61-88歳)

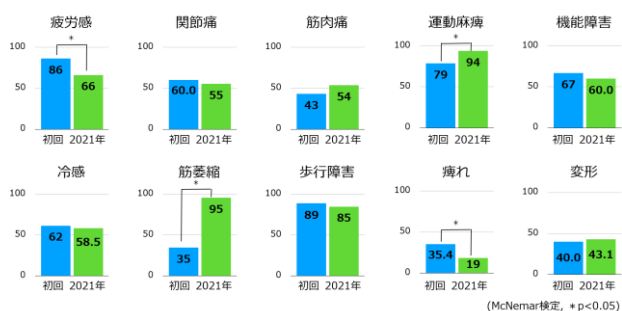
専門外来フォローあり
65名中37名 (66.2%)

(脱落13名除く)

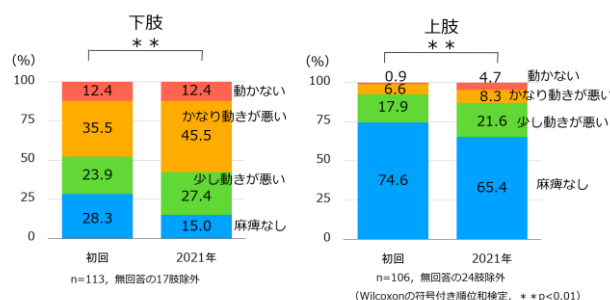
安定期の麻痺の分布



症状の変化 n=65, (%)



運動麻痺の変化



下肢：良好側不良側の変化

MMT平均右=左の4肢(2名)除外
Wilcoxonの符号付き順位和検定

良好側 n=53

不良側 n=53

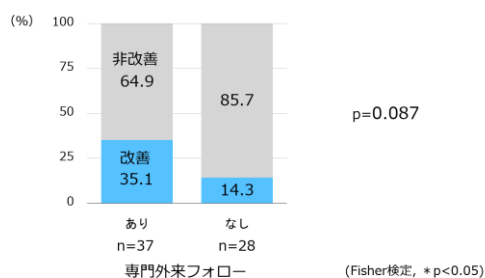
動かない 2	0	1	0	1
かなり動き が悪い 12	3	2	7	0
少し動きが 悪い 23	12	8	3	0
麻痺なし 16	14	2	0	0
n	麻痺なし 29	少し動きが 悪い 13	かなり動き が悪い 10	動かない 1

初回
p=0.004

聴かない 12	0	0	1	11
かなり動き が悪い 36	2	9	24	1
少し動きが 悪い 7	1	3	2	1
麻痺なし 1	0	1	0	0
n	麻痺なし 3	少し動きが 悪い 13	かなり動き が悪い 27	聴かない 13

初回
p=0.088

疲労感の変化と専門外来フォローの有無



まとめ

ポリオ経験者は約14年の経過で

- 運動麻痺，筋萎縮の増加
- 疲労感，痺れの減少を認めた
- 運動麻痺は，下肢は良好側で悪化し，不良側は変化がなかった

2021年アンケート結果 2021年6月実施

アンケート項目

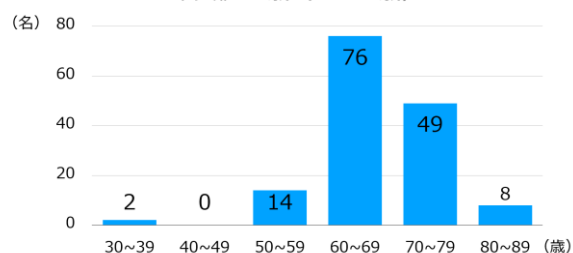
- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他

アンケートの回収率

	人数（名）	
送付	207	
回収	150	書面 118, web 32
非回収	57	
回収率 72.5%		

年齢の分布

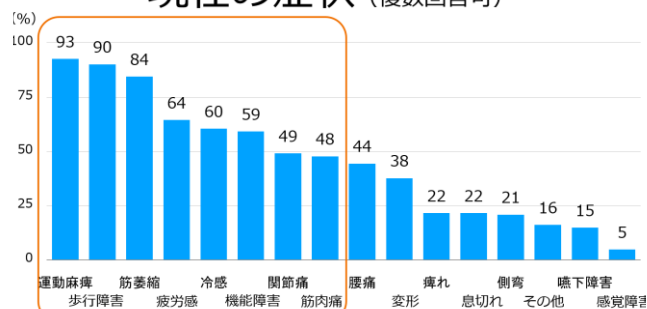
中央値68歳（31-88歳）



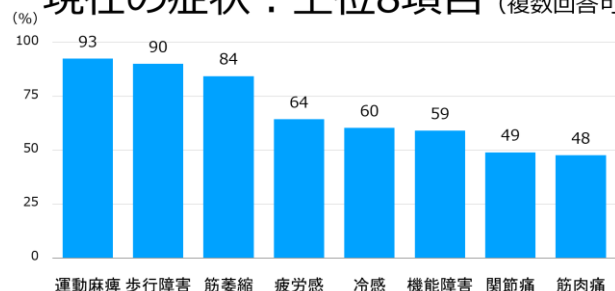
アンケート項目

- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他

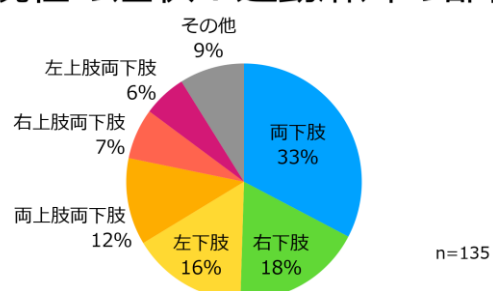
現在の症状（複数回答可）



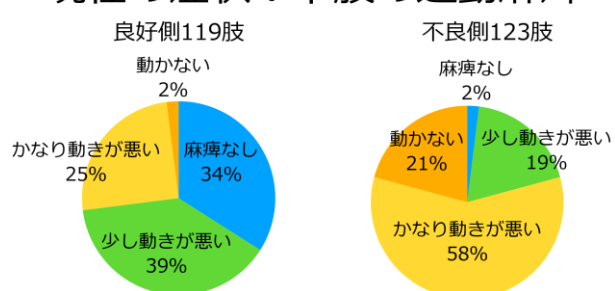
現在の症状：上位8項目（複数回答可）



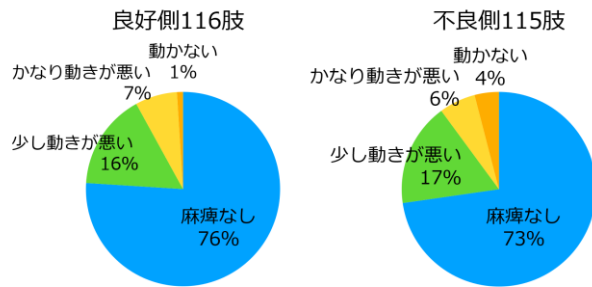
現在の症状：運動麻痺の部位



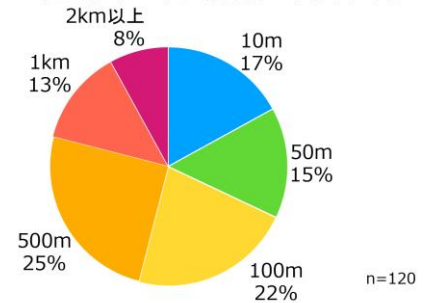
現在の症状：下肢の運動麻痺



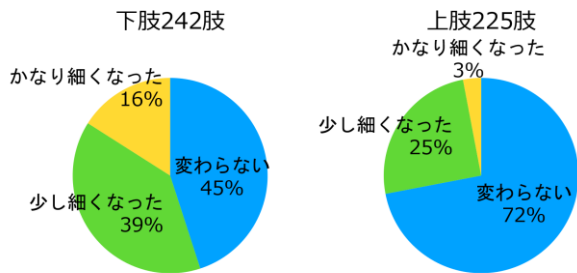
現在の症状：上肢の運動麻痺



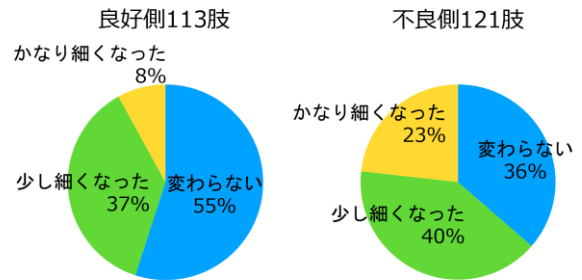
現在の症状：連続歩行距離



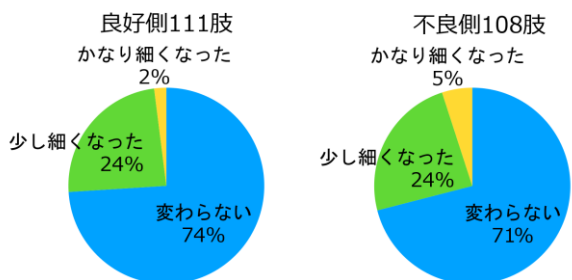
現在の症状：筋萎縮



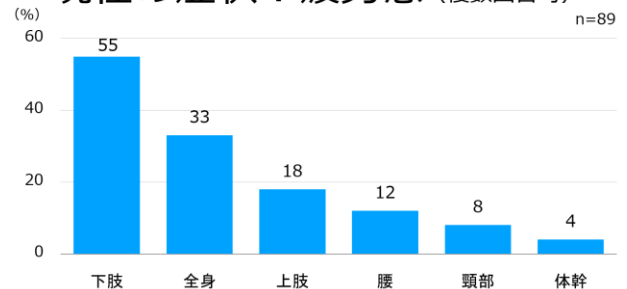
現在の症状：下肢の筋萎縮



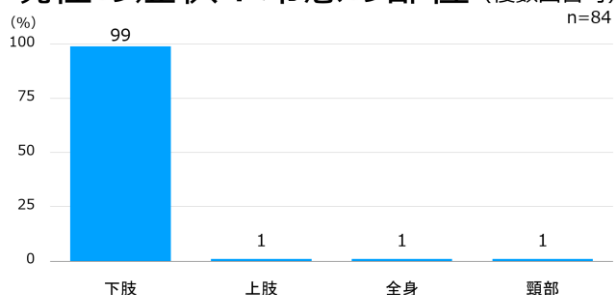
現在の症状：上肢の筋萎縮



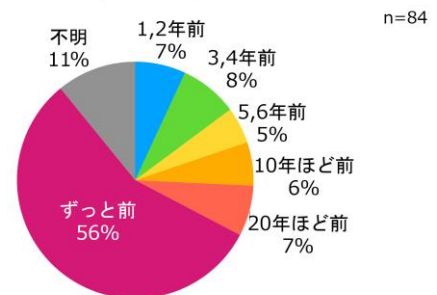
現在の症状：疲労感（複数回答可）



現在の症状：冷感の部位（複数回答可）



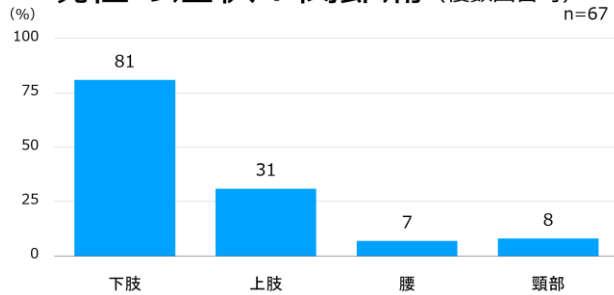
現在の症状：冷感の時期



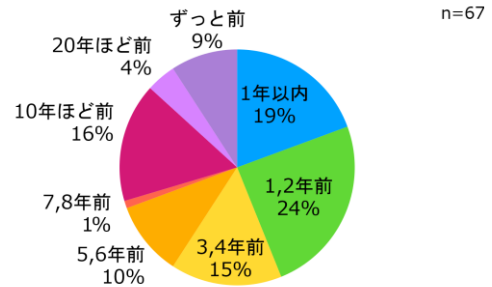
現在の症状：機能障害 88名

- 歩行（杖や装具，歩行速度や距離）：29名
- 立ち上がり：16名
- 階段昇降：16名
- その他
片足立ち，しゃがみ動作，農作業，家事，
書字，物を持つなど

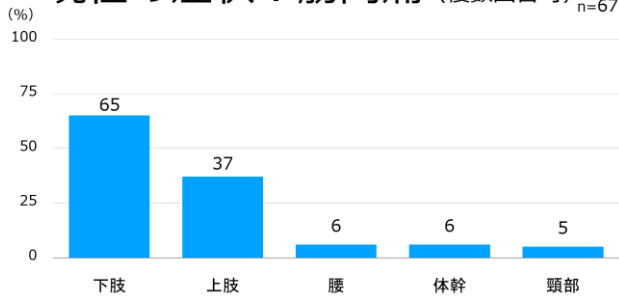
現在の症状：関節痛（複数回答可）



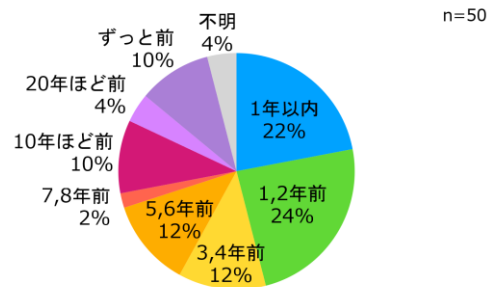
現在の症状：関節痛の時期



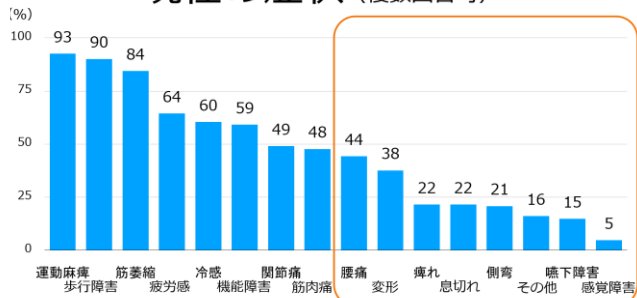
現在の症状：筋肉痛（複数回答可）



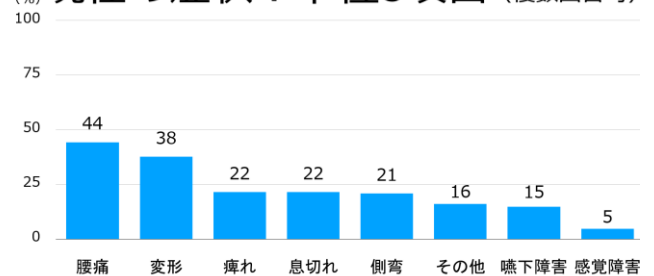
現在の症状：筋肉痛の時期



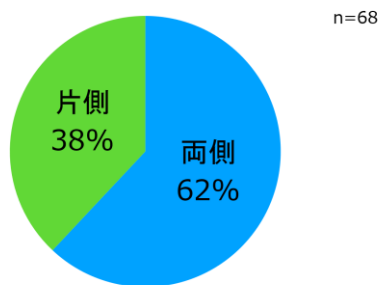
現在の症状（複数回答可）



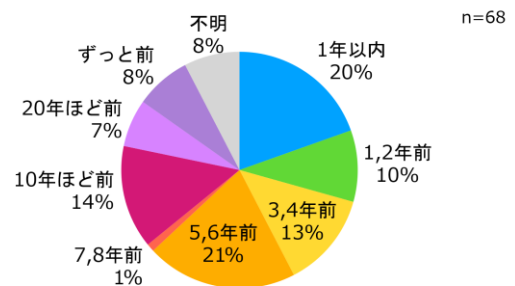
現在の症状：下位8項目（複数回答可）



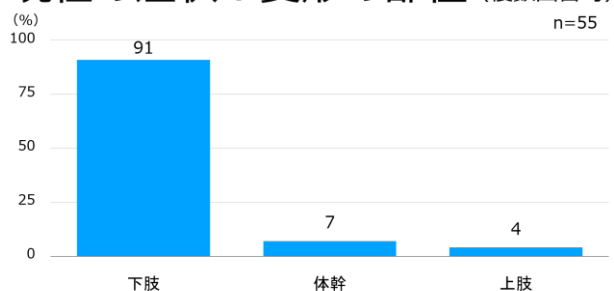
現在の症状：腰痛の部位



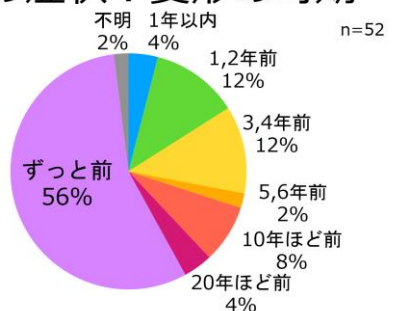
現在の症状：腰痛の時期



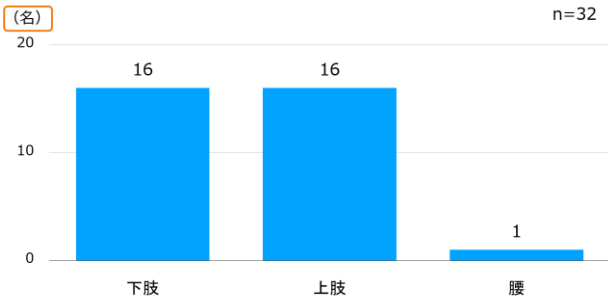
現在の症状：変形の部位（複数回答可）



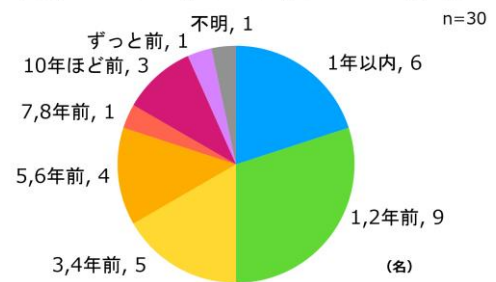
現在の症状：変形の時期



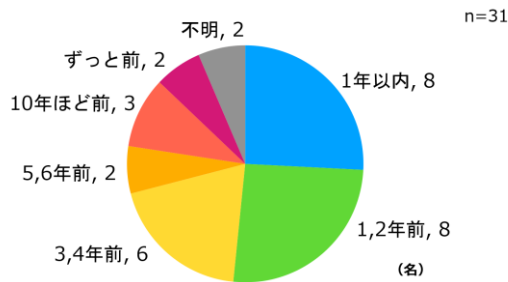
現在の症状：痺れの部位 (複数回答可)



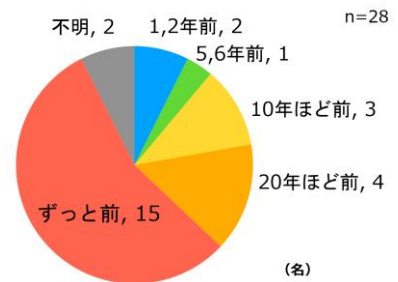
現在の症状：痺れの時期



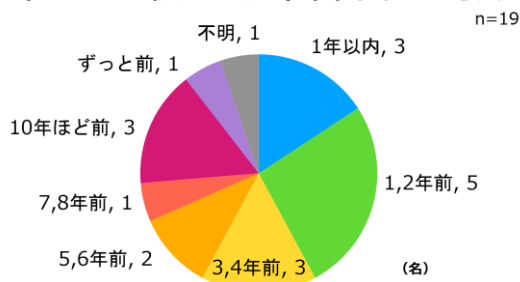
現在の症状：息切れの時期



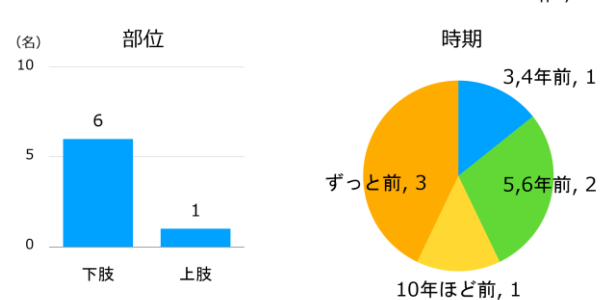
現在の症状：側弯の時期



現在の症状：嚥下障害の時期



現在の症状：感覚障害



現在の症状：その他

30名

- 内科疾患：3名
- こむら返り：3名
- 反応が遅くなった：2名
- 転倒：2名
- だるさ：2名
- 関節痛, 筋肉痛以外の痛み：2名
- その他 (めまい, こわばり, 胼胝など)

現在の症状のまとめ

- 運動麻痺, 歩行障害, 筋萎縮が最も多くみられた
- 良好側の下肢は約75%に麻痺があった
- 連続歩行距離が10m~500mの人が約80%だった
- 上肢より下肢の筋萎縮が多く, 下肢は良好側より不良側の筋萎縮が多かった

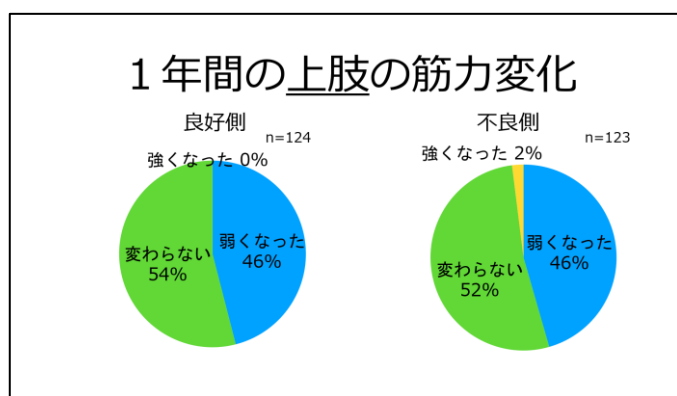
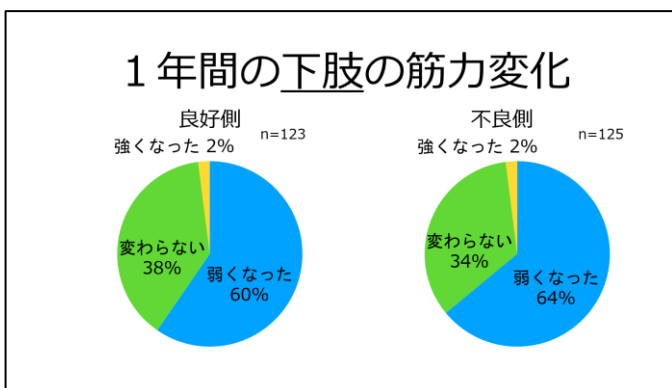
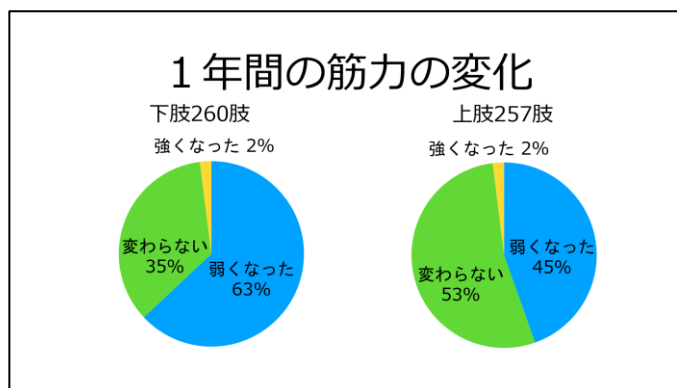
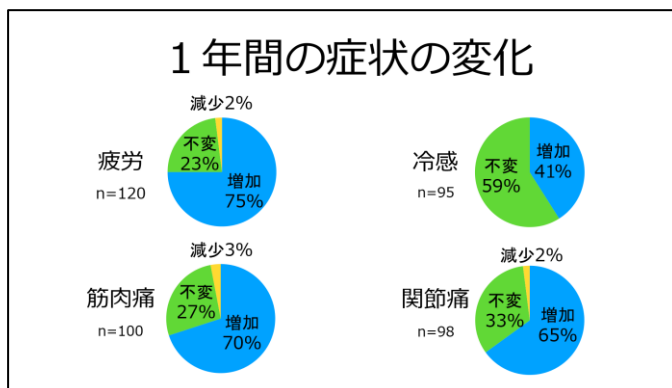
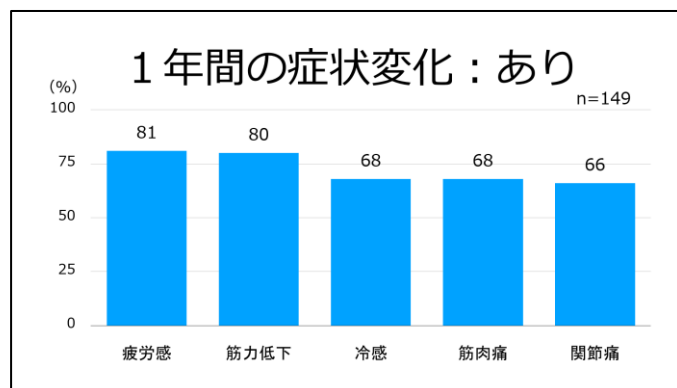
アンケート項目

- 現在の症状
- 1年間の症状の変化 (2020年6月→2021年6月)
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他
 - * 新型コロナ感染症流行
 - 第2波ピーク：2020年7月
 - 第3波ピーク：2020年11~12月+2021年1月

質問の該当期間とCOVID-19流行時期 (新型コロナウイルス)

質問の該当期間
2020年6月 ↔ 2021年6月

* COVID-19 (新型コロナウイルス) 流行
第2波ピーク：2020年7月
第3波ピーク：2020年11~12月+2021年1月
第4波ピーク：2021年4月



1年間の症状の変化：その他

19名

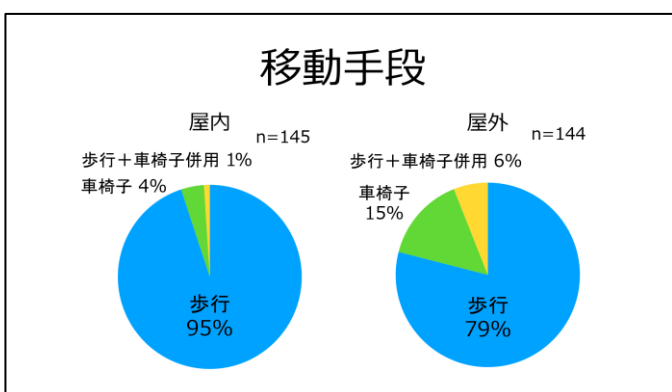
- 他の疾患（骨折、脊椎疾患、変形性関節症）：7名
- その他
ふらつき、体力の低下、こむら返りなど

1年間の変化のまとめ

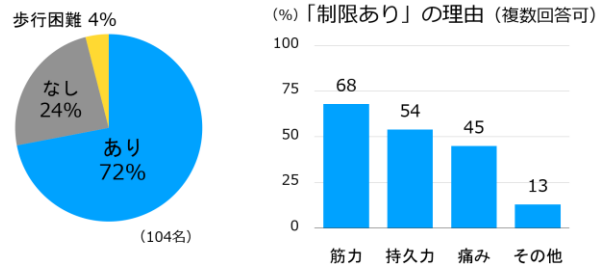
- 1年間で疲労が増加した例、筋力低下が進行した例が多かった
- 下肢は良好側、不良側とも、約60%が筋力が弱くなったと回答した
- 上肢は良好側、不良側とも、約45%が筋力が弱くなったと回答した

アンケート項目

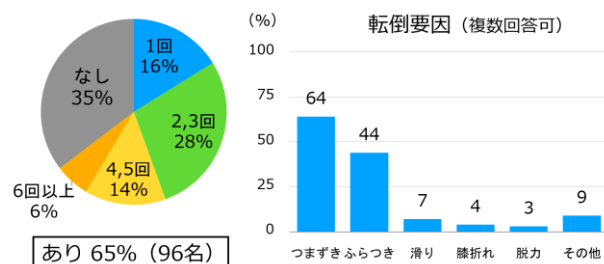
- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他



歩行距離の制限の有無 n=145



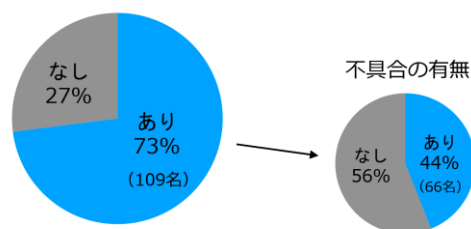
1年間の転倒歴 n=148



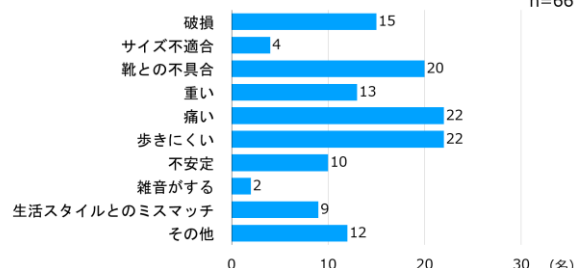
アンケート項目

- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他

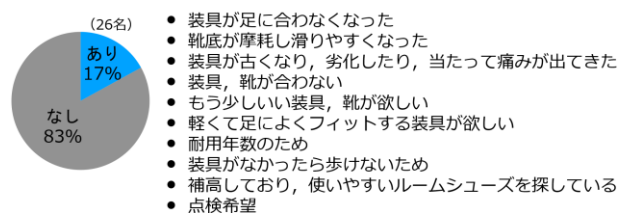
装具 (加工靴を含む) の所有 n=149



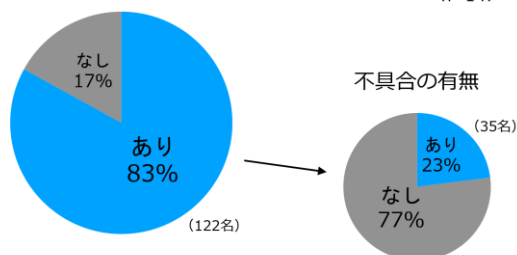
装具の不具合の内容 (複数回答可) n=66



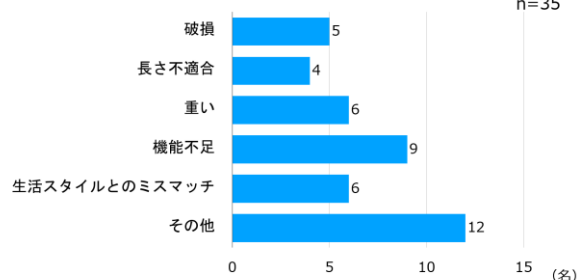
装具の使用・作製希望



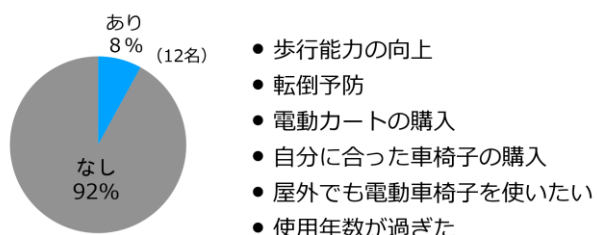
歩行補助具の所有 n=147



歩行補助具の不具合 (複数回答可) n=35



歩行補助具の使用・購入希望



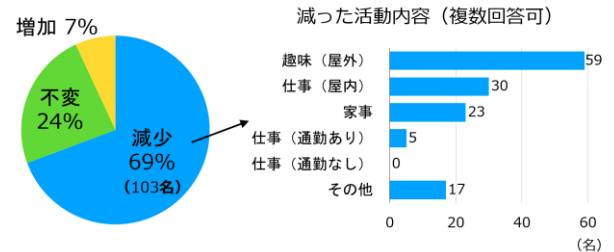
移動能力, 補装具のまとめ

- 屋内歩行は95%が、屋外歩行は約80%が行っていた
- 1年間に65%が転倒していた
- 約70%が装具を使用、約80%が杖などの歩行補助具を使用していた

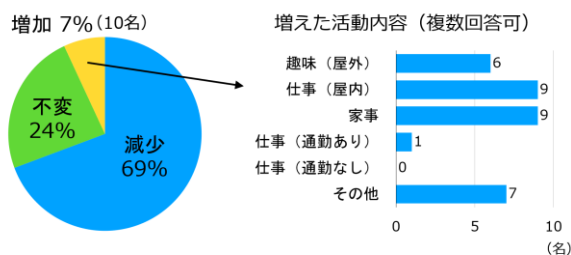
アンケート項目

- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他

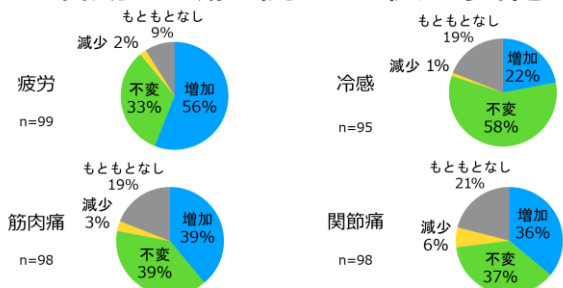
日常生活での活動量変化



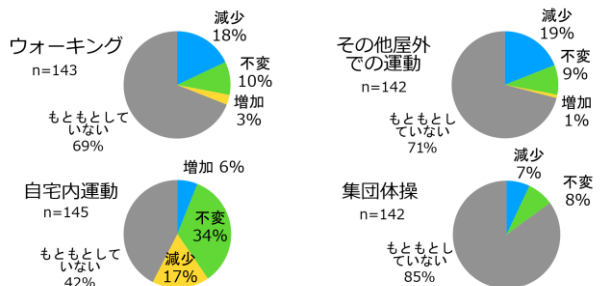
日常生活での活動量変化



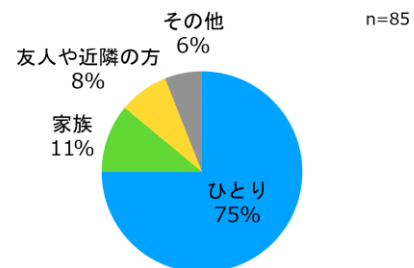
活動量減少例の症状の変化



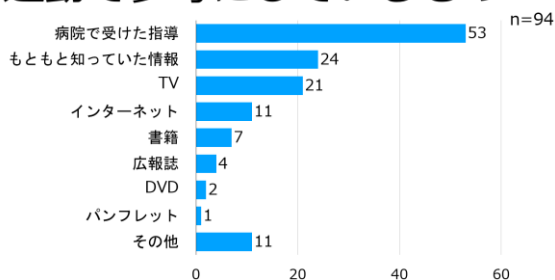
感染症流行下における運動の実施状況と変化



誰と運動しているか



運動で参考になっているもの



身体活動量

身体活動量の評価

国際標準化身体活動質問票(IPAQ) short版

- A. 歩行に関する身体活動量
メッツ・分/週 = 3.3 × 1日あたりの歩行時間（分） × 1週間あたりの歩行を行う日数
- B. 中等度の身体活動に関する身体活動量
メッツ・分/週 = 4.0 × 1日あたりの中等度身体活動時間（分） × 1週間あたりの中等度身体活動日数
- C. 強い身体活動に関する身体活動量
メッツ・分/週 = 8.0 × 1日あたりの強い身体活動時間（分） × 1週間あたりの強い身体活動日数
- D. 総身体活動量
メッツ・分/週 = A + B + C

身体活動量

身体活動量のカテゴリー評価 国際標準化身体活動質問票(IPAQ) short版

- カテゴリー1：低身体活動 (Low)：**2, 3以外の者
- カテゴリー2：中身体活動 (Moderate)：**以下の条件のいずれかを満たす者
 - 1日20分以上の強い身体活動を週3日以上
 - 1日30分以上の中等度の身体活動または歩行を週5日以上
 - 歩行、中等度の身体活動、強い身体活動のいずれかを週5日以上実施し、総身体活動が600 メッツ・分/週以上
- カテゴリー3：高身体活動 (High)：**以下の条件のいずれかを満たす者
 - 強い身体活動を1週間あたり3日以上行い、その総身体活動量の合計が1500 メッツ・分/週以上である者
 - 歩行、中等度の身体活動、強い身体活動の1週間あたりの合計日数が7日間以上で、なおかつ総身体活動量が合計3000 メッツ・分/週を満たしている者

身体活動量（平均）

	調査時	1年前	天竺ら (65~74歳)
対象	124名	120名	2045名
座位臥位行動時間	3628 ± 2142	3401 ± 1980	2333 ± 1700
10分以上継続の歩行時間	135 ± 250	209 ± 328	443 ± 447
中等度の身体活動時間	67 ± 206	93 ± 234	
強い身体活動時間	20 ± 124	36 ± 136	
*中等度～強い身体活動時間	226 ± 422	338 ± 548	494 ± 532

*歩行を含む

(分・週)

身体活動量（中央値）

	調査時	1年前	Yamadaら（65-84歳）	
			コロナ禍	コロナ前
対象	124名	120名	1600名	1600名
座位臥位行動時間	3360	3360		
10分以上継続の歩行時間	66	78		
中等度の身体活動時間	0	0		
強い身体活動時間	0	0		
*中等度～強い身体活動時間	60	120	180	245

*歩行を含む

(分・週)

身体活動量のカテゴリー評価

(名)	調査時	1年前
対象	124	120
カテゴリー1: 低身体活動	94	78
カテゴリー2: 中身体活動	20	24
カテゴリー3: 高身体活動	10	18

COVID-19流行による影響のまとめ

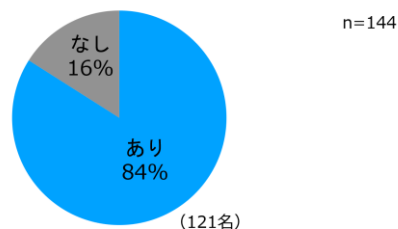
(新型コロナウイルス)

- 約70%が日常生活での活動量が減少した
- 活動量の変化により、疲労、筋肉痛、関節痛の増加が多くみられた
- 流行前と比較し、調査時の身体活動量は低下していた

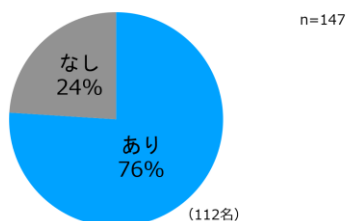
アンケート項目

- 現在の症状
- 1年間の症状の変化
- 移動能力
- 補装具
- 新型コロナウイルス感染症の流行による影響
- その他

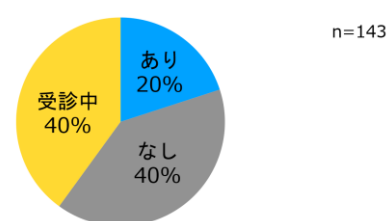
かかりつけの病院や診療所の有無



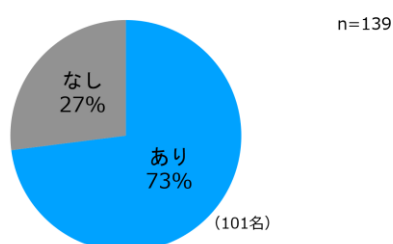
健康診断、またはそれに相応する医学的管理の有無



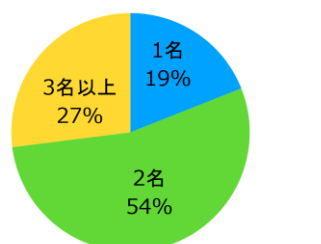
ポリオ定期検診以外での当院外来への受診希望の有無



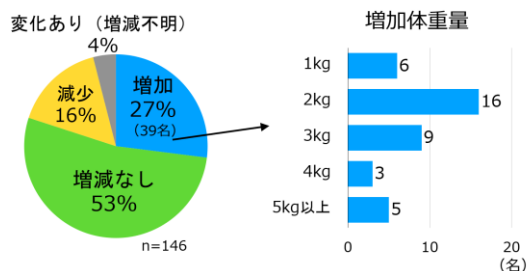
ポリオ定期検診の受診希望の有無



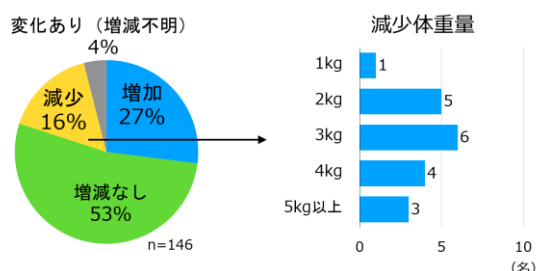
世帯人数



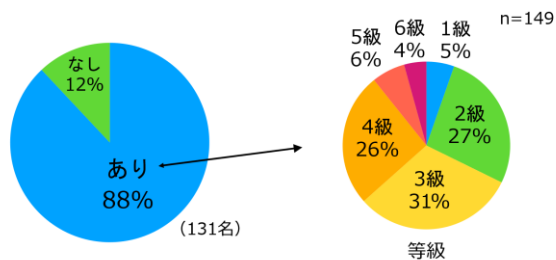
直近1年間の体重変化



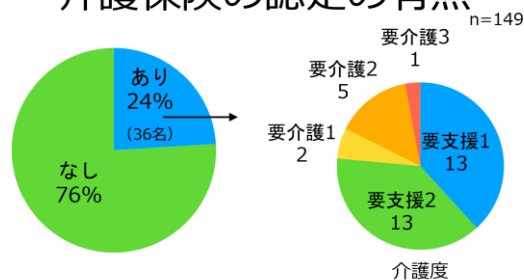
直近1年間の体重変化



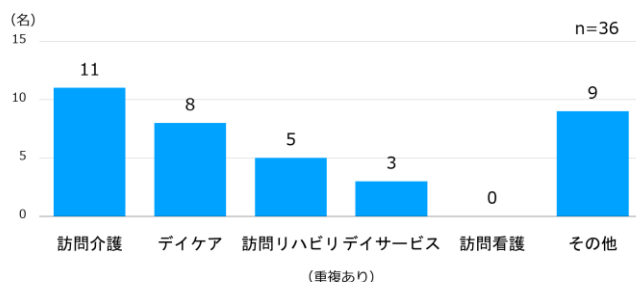
身体障害者手帳の取得の有無



介護保険の認定の有無



受給している介護保険サービス内容



まとめ

- 症状は、運動麻痺、歩行障害、筋萎縮が最も多くみられた
- 1年間で疲労の増加例、筋力低下の進行例が多かった
- 屋内歩行は95%が、屋外歩行は約80%が行っていた
- 約70%が日常生活での活動量の減少した

誌面の都合上、アンケート部分のみを掲載いたしました。ご了承下さい。
 長引くコロナ禍により行動制限があり、会員の皆さんもPPSが進行している状況がこのアンケートでも現れています。検診会も2年以上行うことが出来ませんでしたので2020年、藤田医科大学ポリオ検診会プロジェクト【BGras】のご協力により、アンケートを実施し会員の皆さんの現在の状況を把握し過去のデータとの比較検証を行うことが出来ました。今回発表して頂いたものを活用し、今後の生活に参考になればと思います。

改めてアンケートを実行して頂いた、藤田医科大学リハビリテーション医学講座の戸田英美先生、林和弥理学療法士及び関係された方々に御礼申し上げます。

尚、このデータはポリオ友の会東海のホームページでも掲載しておりますので、誌面では小さく見にくい所は拡大してご覧ください。